時事新報定價

時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送費及廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓四十錢〇六箇月前金二圓〇一箇年前金六圓

〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限
一行二十錢	十一錢

月曜日幷に大祭祝日の翌日等他の新聞紙の休刊日に限り時事新報掲載の廣告に限り新聞代價一箇月前金八錢にて一方に購讀する分は他の新聞紙の代價を申受く可し

時事新報

政府且つ切迫するふとを休めよ

我輩は前日の紙上に諸士且つ切迫するふとを休めよと題して天下有志の士人は政治を以て一の職業と思ふふとなく學問商賣等何れも立國の要素なれば之に從事して身を立て家を興すふと離からずとの旨を述べたるは固より士人の爲めにしたる言なれども又一方より見れば社會の風潮斯くありてふそ當局の爲政者も政を爲すに便利にして恰も其運動の餘地を得るふとなれば心を靜にして社會全面の大勢を通覽し此種の士人が學問商賣等の門に入るの道をして見からしむるの法を講ずるは今日の急務なる可し殊に然するに經に憲法を發布して今年は國會開場の期に臨みたれども内閣は依然として政黨内閣に非ずとの旨は過般内務大臣の訓諭にも見えたるふとなれば國會開場の如何に由て政府の更迭ある可きに非ず相替らず今の閣員を以て持續するか、假令へ或は二三四五の新陳交代あるも其交代は國會の勢力に由らずとの意味なる可し譬へば國に始めて民黨の論議を向き強に勢力を得て俄に内閣を一掃し新陳劇變して面目を新にするが如きは頗る危險なるふとなれば免角に數年の安寧を買ふが爲め責任内閣の正則に達するまでは徐々に歩を進めて政府と人民と恰も歩合いの姿を爲し相互に調和せしむるふと我輩の切望する所なり其法如何と云ふに唯政府の人が自から韜晦して名利の光明を消くするの一事に在るのみ商賣國にもあらず學問國にもあらず純然たる政治國と稱する日本の政權を執るからには國中最上の名譽も利益も之を専有して光明を耀かさんとするは至極尤もなる次第にして深く咎む可きに非ず是れ彼等が畢生の志願を遂げたるものならんなれども名利の熱心は獨り政府中に流行するのみならず彼の所謂有志の士人等も大抵皆日本士族の子にあらざれば平民の士化したる者にして正しく政府の人と種族を同ふし一種特色の氣風を帶びて官途の名利を好むふと甚だしく已れ自ら之を得ざれば他人の名利を羨むの情に堪へず其熱度の高きは俗に云ふ五分の事あれば彼の居は在朝の人々も鎬と判して、夫り經書の價を失ひ、忘れ難き痴情を忘れて政府の役は唯政事を行ふに在るのみと覺悟を定め商賣工業學問等の事に付ては國法に關係する部分の外は一切之を人民に任せて干渉せざるのみか其々の際に官途の勢力を張すが如き弊を除き恰も世間と斷絕して所謂御用商人御用學者の弊を摘け假在朝の本人は俸給を薄くし爵位階等を棄て素朴殺風景に生活するふと在昔の田舍武士の如くにして天下衆目の光明を提減せふには我輩の運